

■MLF Japan Challenge Shin-Tone ルール

<エントリーおよび参加資格>

- ・ 使用艇はレンタルボートのみ、動力はトロローリングモーターのみとする。
- ・ 小型船舶操縦士資格を必要としないボート（免許不要艇）を使用する場合、トロローリングモーターを複数機、装備することは禁止。
- ・ 使用艇の保護という観点から、バッテリーは4台までとする。
- ・ すべての出場選手はスマートスケールアプリ（以下、スマートスケール）を自身のスマートフォンにインストールし、登録を完了すること。またスマートスケールの登録名は本名、ニックネームは本名を英語表記で行うこと。

例）大山太郎→Taro Ooyama

- ・ イベントで撮影されたすべての写真および動画は MLF Japan に帰属する。撮影された素材は MLF Japan ウェブサイト、SNS 各種、および印刷物などに使用する。
- ・ すべての出場選手は MLF Japan オフィシャルが定めたルールを理解し、遵守することを示す誓約書に署名すること。

MLF Japan Challenge Shin-Tone	
Name:	Mobile Phone:
Tackle Check	
MLF Japan Challenge ロゴ	スマートスケールアプリ
ライフジャケット(捺印)	新利根漁協遊漁証
保証書貼る	

※右欄の□に印を付けてチェックする。該当しない欄には斜線を入れる。

プロトーナメントアングラーの誓い

私は、本イベントに出場するにあたり、以下の事項を遵守します。また、MLF Japan Challenge 出場選手としての自覚を持ち、MLF Japan の人気向上とファン獲得に全力で取り組みます。

- ・主権、運営団体の定めるレギュレーションを遵守し、いかなる不正も行いません。
- ・健全かつ公正なトーナメント運営のため、他人の不正も見逃さず報告し、疑義の存る行為についても積極的な情報提供を行います。
- ・フェアな環境下で釣果を競い合うイベント本旨に従い、相メンバーに不当な要請をしません。
- ・アングラーの共通資源であるフィールドを守るため環境保護とバスの保護（生体保護）に努めます。
- ・レギュレーションの適用や上記の各事項に関して当事者間での疑義が生じた場合には、主催団体の裁定に服します。

本誓約に反し、違反行為などが認められた場合には、当該違反が利用したイベントに際し、MLF Japan のすべてのイベントで得た賞金全額または漁具を直ちに没収します。また、違反内容によっては、刑事訴訟や別途の損害賠償請求を受ける可能性があることも十分に理解して、本イベントに参加します。

年 月 日

(自署)

エントリーシート

<スポーツマンシップ>

- スポーツマンシップとは、MLF Japan のイベントに出場する選手、または一般のアングラ（非競技者）、オフィシャル、スポンサー企業などに対する攻撃的、あるいは敵対的な行動、および個人に対する冒瀆的な言動を指す。著しいスポーツマンシップ違反が現認された選手は出場資格を剥奪する場合がある。
- 魚の保護と保全は最優先事項とする。キャッチしたバスについても、無闇に抜き上げない、デッキに落とさない、計測時はネットなどで一時的にキープする、などの配慮を常に行うこと。
- MLF Japan はオフィシャル、スタッフ、スポンサー、ギャラリーおよび漁業関係者に不利な影響を与える行為の一切を容認しない。
- MLF Japan に所属する選手はスポーツマンシップに則り、ルールとマナーの遵守、および安全第一と環境保護の精神をもってイベントに出場すること。
- プラクティスおよび競技時間中のアルコールまたは薬物の摂取は厳禁（ただし市販薬、または医師の処方箋による薬剤は可）。
- 他の団体から課せられた失格、出場停止、または懲戒処分の内容によっては、MLF Japan が主催するイベントへの出場を認めない場合もある。
- 健全かつ公正なイベント運営のため、他人の不正も見逃さず報告すること。抗議や規則違反の疑いは帰着後 30 分以内にオフィシャルに申し出ること。
- トーナメント水域における GPS ポイントや魚の位置特定など、釣果につながる情報の購入（物品提供を含む）とガイドサービスの利用は、各イベントのエントリー締め切り以降、禁止する。
- 競技に参加していない一般アングラがスポットを確保し、選手が来た際に入れ替わる行為（事前の場所取り、マーカーの利用を含む）を禁止する。
- 会場内での喫煙は指定された場所のみとし、歩行喫煙は禁止する。

<エントリー方法>

- ① スマートスケールを自身のスマートフォンにインストールする。
- ② インストール後、それぞれ必要事項をすべて記載し登録する。

■注意

- ・画像は必ず上半身、トーナメントジャージ着用、偏光グラスなしのもので登録
- ・ニックネームは本名を英語表記

例) 大山太郎 → Taro Oyama

- ③ 年会費をスマートスケールより決済する。

※年会費は必ず期日までに決済を行うこと

<各イベントへのエントリー>

- ① スマートスケールから、当該イベントにエントリーする。
- ② エントリーフィーをクレジット決済する。

<連絡事項>

- ◆ オフィシャルからの連絡事項は、スマートスケールから発信するため、こまめに確認すること。

＜エントリーフィー＞

- ◆ MLF Japan に出場する選手は下記のエントリーフィーを支払わなくてはならない。

- ボーター

年会費：¥5,500

エントリーフィー：¥3,850

※金額はいずれも消費税込み。

- ◆ 年会費および各イベントのエントリーフィーはスマートスケールでの決済とする。

<MLF Japan イベント開催時>

◆ タックルチェック

- 受付前に、タックルチェックを実施する。所定の用紙（エントリーシート）に必要事項を記載し、裏面の誓約書に自署のうえオフィシャルに提出すること。不備があった場合はペナルティを課す。
- イベント出場時に着用するライフジャケットは、桜マーク（国土交通省）がついているものに限る。

◆ 受付

- 混雑を避けるため、速やかに受付を済ませること。
- 受付ではスマートスケールの QR コード読み込みを行う。
- エントリーシートを提出する。
- スタート順の抽選を行う。

◆ ミーティング

- 規定の時間にミーティングを行う。ミーティング時は必ず、トーナメントジャージを着用して出席すること（雨天時および極寒時はジャケットの着用を認める）。
- ミーティングではルールやエリアなどの説明および質疑応答を行う。

◆ スタート

- 抽選結果に基づき、番号の若いほうから順にスタートとする。
- オフィシャルに自分のスタート順と名前をコールされたら合図を送り、OK が出たあとスタートする。

◆ 帰着

- 船を係留後、スマートスケールの QR コード読み込みを行った時点で帰着完了とする。規定の時間内に読み込みをしなかった場合、失格・スコア取り消しとなるため注意。
- 表彰式の時間はオフィシャルよりアナウンスする。時間厳守で出席すること。

<イベントルール>

- プラクティスは日の出から日の入りまでとする。
- イベント開催前日のプラクティスについて、魚のキープおよびライブウェル等を使用した移動を禁止する。
- MLF Japan に出場する選手は、MLF Japan が規定する 2 種のロゴを規定サイズに則って着用するウェアに掲出する。ウェアの種類は不問。なお、掲出は胸より上の正面で、できるだけ目立つ位置に入れること。



MLF Japan Challenge ロゴ

- イベントのスコアはバス 3 匹の重量で競う。
- 出場選手は他の選手による規則違反の疑いがある場合、速やかにオフィシャルに報告すること。
- キャッチしたバスは 3 分以内にデジタルスケールによる計測を行い、10 分以内に「スマートスケール」による申請を完了すること。なお、緊急事態でない限り、移動後の計測は認めない。
- 常に安全な操船を心がけること。
- イベント中に緊急事態が発生した際は、オフィシャルに連絡したうえで対処を行うこと。また状況に応じて、海上保安庁 118 にも速やかに通報すること。
- 荒天予報時のイベント開催について、当日 7:00am 時点の茨城県稲敷市を基準とし、天気予報アプリ各種を総合的に参考にして、オフィシャルで協議のうえ開催の可否を決定する。※台風などの影響で警報が発令されている場合は前日に開催の中止を決定することもある。
- 急な天候の変化によってオフィシャルが危険と判断した場合、競技時間を短縮する場合もある。また荒天の際は無闇に動かず、身の安全を最優先すること。
- ボートトラブル等により競技続行不可能となった場合、棄権（失格）とする。

- 競技中のスマートフォンの使用はスマートスケールの取り扱いおよび緊急連絡時以外、禁止する。

<競技ルール>

- Smart Scale に登録する本人画像は上半身、ロゴを配したウェア着用、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 対象魚はブラックバス（ラージマウスバス）のみ。
- ランディングネットの使用を認める。
- 釣り方はルアーに限り、フライおよびエサの使用は認めない。
- アラバマリグについて、ワイヤーは5本まで、フックはシングルトレブルを問わず3本までとする（別紙参照）。
- 一度に使用できるロッドは1本とする。ただしスタックしたルアーを回収する前に、異なるロッドを使用することはこれを認める。もし、スタックを回収する前のルアーでバスが釣れた場合、その魚はスコアの対象としない。
- 陸に上がっての釣りは禁止。ただしボートの位置を保持するため、木杵や護岸などに片足をかける行為はこれを認める。
- 他の釣り人や湖川利用者に迷惑をかける行為および危険行為は厳禁。クレームなどの通報や他選手からの報告があった場合、事情を聴取したうえで処遇について運営本部で協議し、不問またはペナルティーを決定する。
- 魚への細工は厳禁。不正行為が発覚した場合、永久追放とする。またこの場合、過去に獲得した賞品を新品にて返還する。
- サイトフィッシングによってキャッチしたバスは、口の中にフックが掛かっていることを前提とする。
- トローリングモーターを使用したドラッキング（トローリング）は不可。

<検量>

- MLF Japan イベントにおいて、スコアブルバスは 300g 以上とし、その重量未満のバスはスコアとして認めない。
- MLF Japan イベントはデジタルウェイトとし、スコア集計はスマートスケールを使用する。そのため、参加選手は自身のスマートフォンに当該アプリのインストールおよび登録を必須とする。また登録の際、登録名は本名、ニックネームは本名を英語表記が原則とする。
- スマートスケールに登録する本人画像は上半身、規定のウェア着用、偏光グラスなしで撮影したものに限る。
- 検量の際、バスはフックを外した状態で行うこと。
- 検量で使用するデジタルスケールは持ち上げた状態で電源を入れ、魚を吊るす前にゼロが表示されていることを確認のうえ行うこと。
- 検量はデジタルスケールにバスを吊るし、宙に浮いていることがわかる状態でスコア（重量）がはっきりとわかる写真を撮影する（①）。さらに規定のメジャーを使用して、魚の全長がわかる写真を撮影する（②）。最後に釣った本人がバスを持っている写真を撮影する（③）。この①～③の画像をスマートスケールで申請する。
- デジタルスケールにバスを吊るしたあと、魚体に触れることは如何なる理由があっても厳禁とし、やむをえず触れた場合は最初からやり直すこと。
- デジタルスケールは、必ず本体上部にある取手部分を掴むこと。本体側面を持った状態での撮影はこれを認めない（下図参照）。



- デジタルスケールの故障などにより計測できない場合は、速やかに本部に連絡すること。
- アプリの立ち上げや計測するまでの間、魚を保護するという観点から貸与するスカリなどに一時的にキープすること。

- 撮影中、バスがデジタルスケールから外れてデッキに落ちることのないよう、ランディングネットを下に構えるなどの配慮をしたうえで一連の作業を行うこと。

<使用艇に関する注意>

- レンタルボートのみ。
- 動力はトローリングモーターのみ。
- 「免許不要艇」を使用する場合、トローリングモーターを複数機使用することは禁止。
- リチウムイオンバッテリーを搭載する際は、「船検承認」を受けることができる物に限る。なお、搭載できるバッテリーは4個までとする。

<成績について>

- 300g 以上のバス 3 匹までの重量によって争う。

<エリアについて>

- 新利根川全域、洲の野原および妙義水道。
- 上限は新利根川上流の堰まで、下限は妙義水道の河口を結んだラインとする。
- 上流に向かって右岸側にある水路への進入および釣りは禁止。



- 真珠棚の外側へのキャストは認めるが、内側へのアプローチは禁止。新利根川上流の真珠棚に関しては下図を参照。



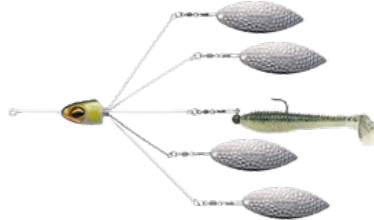
<エリア制限について>

- レンタルボート店周辺での釣りは認めるが、キャスト時、係留・停泊しているボートには当てないよう注意すること。
- 台船や係留船は人がいる場合、キャストを禁止する。また船に当てないよう細心の注意

を払うこと。

- 先行者がいる場合、半径 20m 以内への接近は禁止。声がけをしたうえでの接近も禁止する。ただしスタート、帰着、緊急時はこの限りではない。
- オイルフェンスの扱いについては開催当日にアナウンスする。なお、洲の野原のオイルフェンスについて、釣りは OK とするが根掛かりは必ず回収すること。
- 産卵時期など、期間限定で禁止または自粛エリアを設ける場合もある。

<アラバマリグ・使用 OK のセッティング例>



ワイヤー 5本
ブレード 4枚
フック 1本



ワイヤー 5本
ブレード 2枚
フック 3本



ワイヤー 5本
ワーム 5本
フック 1本



ワイヤー 5本
ブレード 4枚
ハードベイト 1個
フック 3本



ワイヤー 5本
ハードベイト 5個
フック 3本

事項	ペナルティー	備考
スポーツマンシップ違反	失格・出場資格剥奪	申告があった場合はマイナス 500g
トーナメントジャージ未着用	失格	
他者に不利な影響を与える行為	失格	
アルコールまたは薬物の摂取	失格	
エントリーシートの記載漏れ	マイナス 500g	
ライフジャケット不備	失格	
受付の遅刻	マイナス 500g	所定の時間内に完了しなかったとき
ミーティングへの遅刻	マイナス 500g	
ミーティングの欠席	マイナス 1000g	
スタートの遅刻（30 分以内）	マイナス 1000g	
スタートの遅刻（30 分以上）	失格	
帰着遅れ（10 分以内）	マイナス 1000g	
帰着遅れ（15 分以上）	失格	
表彰式の欠席	失格	やむを得ない事情の際、オフィシャルへ申告
使用ルアー違反	失格	
他者への危険行為	失格	事情聴取のうえ、不問に付す場合もある
バスへの細工	失格・永久追放	過去の獲得賞金を年利 4%の利息とともに返金
バスの雑な取り扱い	失格	
リリース違反	マイナス 500g	
禁止エリアでの釣り	失格	

※初回の違反については警告。2 回目の違反からペナルティーを適用する。

2026 年 1 月 23 日版